

# 【福島県合同輸血療法委員会】

## 輸血に関するアンケート調査集計結果（2017年）【2018年4月16日時点】

\*参考：【 】内は2016年1月～12月の調査結果

### 病院版

#### 1 調査対象施設等

- (1) 調査対象施設：県内の病院92施設
- (2) 調査対象期間：2017年1月から12月まで
- (3) 調査方法：アンケートへの依頼文書を郵送で送付し、福島県薬務課のホームページよりファイル（Excel形式）でダウンロードし、記入したファイルをメールに添付した形で回収した。対応が困難な場合は、FAX等で回収した。
- (4) 回収率：91.3%（84病院から回答）

#### 2 集計結果の概要（項目別）

##### ◎集計結果の報告書を作成するにあたり、病院名等を公開して良いか

可：43病院（51.2%）

##### I 輸血管管理料取得状況について

48病院（57.1%）〔管理料I：11病院、管理料II：37病院〕

##### II I & A取得状況について

取得済：4病院、取得予定：2病院、取得予定なし：76病院、無回答：2病院

##### III 輸血療法委員会等について

- (1) 輸血療法委員会等の設置数 【66病院（75.0%）】

70病院（83.3%）

- (2) 輸血療法委員会を設置しない理由（複数回答あり）

14病院（16.7%）

（指導医がない：10、他の委員会で協議：6、使用がほとんどない：2、その他：1）

- (3) 輸血療法委員長の職種

医師（専門科目：外科33（心臓血管、脳神経、消化器、整形等を含む）、内科24（消化器、循環器、腎臓、血液等を含む）、循環器科2、麻酔科4、泌尿器科1、産婦人科1、精神科1、小児科1、その他2）、看護師1、臨床検査技師1

- (4) 輸血療法委員会の開催回数（回/年）

6回/年：46、12回/年：10、1回/年：5、2回/年：2、11回/年：2、3回/年：1、4回/年：1、7回/年：1、10回/年：1、1～2回/年：1、6～7回/年：1

- (5) -1 県内認定臨床輸血看護師、アフェレーシスナース、自己血輸血看護師、認定輸血検査技師人数（合計）

認定・臨床輸血看護師：72、認定・アフェレーシスナース：2、認定・自己血輸血看護師：13  
認定・輸血検査技師：19

- (5) -2 輸血療法委員会参加人数（医療施設数/輸血療法委員会有66施設）

認定臨床輸血看護師：34（16/70）認定・アフェレーシスナース：0

認定・自己血輸血看護師：5（4/70）認定輸血検査技師：16（14/70）

#### IV 指針等について

(1) 輸血部門の設置数等（複数回答あり）

輸血部門：56病院（66.7%）【60病院（68.2%）】

}	検査部	60件
	輸血部	2件
	薬剤部	6件
	その他	1件

血液製剤保管場所（複数回答あり）

}	検査部	64件
	薬剤部	16件
	輸血部	7件
	その他	2件

(2) 自記温度計、警報装置の設置数等（複数回答あり）

自記温度計：74病院（88.1%）【69病院（78.4%）】

}	記録の頻度	毎日	76件
		週に1回	2件
		年に1回	1件
		その他	2件
		未回答	4件

警報装置：76病院（90.5%）【76病院（86.4%）】

}	冷蔵庫・冷凍庫の保守点検の頻度	毎日	50件、月に1回	10件、年に1回	10件、	
		週に1回	2件、半年に1回	1件、その他	7件、無	1件
		未回答	3件			

(3) 他の管理項目等

1) 運搬容器の設置：66病院（78.6%）【65病院（73.9%）】

2) 輸血用血液製剤と血漿分画製剤の管理の一元化：33病院（39.3%）

【32病院（36.4%）】

3) 管理記録簿等：84病院（100.0%）【88病院（100.0%）】

内訳（複数回答有）

コンピュータ管理：30、手書き伝票：29、両方：24、その他：1

(4) 感染症検査用検体の保管等

68病院（81.0%）【67病院（76.1%）】

(5) 輸血前後の感染症検査の実施

輸血前後両方 46、輸血前のみ 19、輸血後のみ 10、行っていない 8

## V 輸血用血液製剤使用状況について

全血液製剤使用単位数合計 258,887 単位

- (1) 赤血球製剤の使用量は 104,589 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、40.4%である。
- (2) 血小板製剤の使用量は 124,454 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、48.1%である。
- (3) 血しょう製剤の使用量は 29,844 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は 11.5%である。

## VI 輸血用血液製剤廃棄状況について

全血液製剤廃棄単位数合計 2,381 単位 【2,478 単位】

全血液製剤の廃棄率は 0.9%である。 【0.9%】

- (1) 赤血球製剤の廃棄量は 1,662 単位。【1,637 単位】
- (2) 血小板製剤の廃棄量は 210 単位。【400 単位】
- (3) 血しょう製剤の廃棄量は 509 単位。【441 単位】

○輸血用血液製剤の在庫状況

輸血用血液製剤在庫有 14 病院

## VII (1) 年代別及び男女別輸血状況について

輸血患者総数 18,230 人

90歳以上	2,129人 (11.7%)
80-89歳	4,779人 (26.2%)
70-79歳	5,787人 (31.7%)
60-69歳	3,025人 (16.6%)
50-59歳	1,140人 (6.3%)
40-49歳	606人 (3.3%)
30-39歳	313人 (1.7%)
20-29歳	148人 (0.8%)
10-19歳	90人 (0.5%)
5-9歳	27人 (0.1%)
0-9歳	186人 (1.0%)
男性	9,249人 (50.7%)
女性	8,981人 (49.3%)

## VIII (1) 診療科別輸血状況 (回答医療施設数: 84)

※内 10 施設が、輸血患者数の統計が不可であったため、集計結果から除外した

内科全体数 10,127 人

消化器内科:	2,486 人
循環器内科:	1,289 人
呼吸器内科:	247 人
血液内科:	4,409 人
その他内科:	1,696 人

外科全体数 6,397 人

消化器外科:	1,868 人
呼吸器外科:	118 人
心臓血管外科:	1,119 人
形成外科:	112 人
整形外科:	2,285 人
脳神経外科:	387 人
その他外科:	508 人

その他診療科全体数	3, 0 1 2 人	
{	小児科 :	2 4 3 人
	産婦人科 :	5 4 4 人
	泌尿器科 :	7 0 8 人
	麻酔・集中治療科 :	1, 2 9 8 人
	その他 :	2 1 9 人

## IX 自己血輸血について

自己血輸血実施病院：3 2 病院（3 8. 1 %）

### ○貯血式自己血輸血（液状保存）

実施症例数（同種血併用例）：1, 6 1 1 例（5 4 例）

採血量（貯血量）：4, 6 9 6 単位

使用量（輸血量）：4, 2 3 9 単位

### ○貯血式自己血輸血（凍結保存）

実施症例数（同種血併用例）：9 例（0 例）

採血量（貯血量）：3 6 単位

使用量（輸血量）：3 4 単位

### ○回収式自己血輸血

実施症例数（同種血併用例）：4 5 2 例（2 6 7 例）

使用量（輸血量）：9 3 7 単位

### ○希釈式自己血輸血

実施症例数（同種血併用例）：3 例（0 例）

採血量（貯血量）：6 単位

使用量（輸血量）：0 単位

## X 血漿分画製剤使用状況について

アルブミン製剤合計：4 5 2, 8 0 8. 5 g

フィブリノゲン製剤合計：4 6, 7 5 0. 3 5 g

## X I 製剤別購入量・廃棄量について

(1) 赤血球製剤の購入量は1 0 6, 2 5 1 単位、廃棄量は1, 6 6 2 単位、廃棄率は1. 6 %。

(2) 血小板製剤の購入量は1 2 4, 6 6 4 単位、廃棄量は2 1 0 単位、廃棄率は0. 2 %。

(3) 血しょう製剤の購入量は3 0, 3 5 3 単位、廃棄量は5 0 9 単位、廃棄率は1. 7 %

## X II 外来輸血及び在宅輸血について

(1) 外来輸血実施医療施設数：4 2 施設

(2) 在宅輸血の実施：0 施設